

自己評価報告書(最終報告)

報告者

臨床心理士養成コース
／今田 雄三

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

カラーセラピー療法の一つであるMPC(マガジン・フォト・カラーセラピー)を用いたグループ・スーパーヴィジョンを大学院授業「臨床心理学演習」に導入し、臨床心理士養成コースに所属する大学院生に対し一定の学習効果を挙げている。2012年度はそこから更に一歩進めて、当該授業の学習目標の設定や学習効果の測定などを受講者が主体的に行い、具体的な効果を提示可能にするための自己評価システムの作成を計画しており、過去の受講生に対して実施した授業アンケートを元に学習目標の項目の設定、学習効果の自己評価項目の案を作成の上で試行し、それに基づいて2013年度以降に本格実施する自己評価システムを作成する計画であり、当該研究をもって科研費申請を行うものとする。

2. 点検・評価

後期授業「臨床心理学演習」においてMPC(マガジン・フォト・カラーセラピー)を用いたグループ・スーパーヴィジョンで使用する自己評価システムについての研究テーマで、計画通り科研費申請を行った。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

2012年度は大学院教務委員会委員を担当する予定であり、コース内における大学院入試に関する広報活動についてのコーディネーションを行う。具体的には大学院説明会への教員・大学院生の派遣、他大学での本学大学院説明会の開催に関する折衝、入試関連資料・募集要項の送付、受験希望者からの問い合わせに対する対応などについて、本コース所属の教員全員が情報を共有し、適切に業務分担しつつ、効率的かつ実効的な広報活動が行われるようにする。またコース紹介のパンフレットの体裁、内容についても検討し、より受験者にアピールすることを目指す。

2. 点検・評価

予定通りコース内での大学院入試に関する広報活動について、本コース所属の教員全員が情報を共有し、適切に業務分担しつつ、効率的かつ実効的な広報活動が行われる体制を構築し、入試広報に関わる業務を遂行した。結果として、本コースへの入学者として47名を確保し、コース定員を充足することが出来た。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

(1) 授業を通して学校精神保健の実践力の醸成を図ることを目標とする。そのための具体的な方法論として、①授業には独自に作成した資料を用いる、②授業には視聴覚機器を活用することで受講生の興味を喚起し、理解を助ける、③授業には事例検討を取り入れる、④授業で身につけた知識を実際の場面で即応的に活用できるための演習をくり返し行う、の4点を徹底して実行する。また今年度は⑤事例検討において、受講者が主体的に論点を構築していけるための工夫を行うことも導入していく。

(2) 臨床心理士を目指す大学院生、および児童生徒の精神保健の実践に取り組む現職教員が精神科医療の実践に触れ、体験を通して正しい知識を習得出来るように、地域の医療機関と連携し、精神科病院での一週間の短期見学実習の機会が得られるように努める。また毎週一回・継続して研修できる長期実習が行えるように努める。

2. 点検・評価

(1) 前期授業「学校精神保健学研究」において上記目標の①②③を、「臨床心理査定演習Ⅰ」において上記目標の①②を実施した。後期授業「学校精神保健学研究」において上記目標の①～⑤のすべてを、「臨床心理学演習」においては上記目標の①②③④を実施した。よって、当初の予定通り目標を達成することが出来た。

(2) 2012年8月に精神科病院での一週間の短期見学実習を実施し、参加者は4名だった。また2012年4月から12月まで、4つの医療機関において、毎週一回の長期実習を実施し、参加者は9名だった。2013年3月にも精神科病院での一週間の短期見学実習を実施し、参加者は10名だった。なお、2013年3月に、更にもう一つの医療機関でも短期見学実習を実施する予定であったが、医療機関側の事情により8月に変更となっている。

II-2. 研究

1. 目標・計画

(1) 臨床心理士を目指す大学院生の養成における精神保健の知識の習得、事例研究、および描画法やコーラージュ法を用いた心理査定や心理面接技法の習得に関連した研究を行う。

(2) 2012年度においては、引き続き上記に関連したデータの収集を行うとともに、これまでの実践内容やデータの一部に基づき、学術誌または学内紀要論文への投稿を目指す。

2. 点検・評価

(1) 予定通り臨床心理士を目指す大学院生の養成における精神保健の知識の習得、事例研究、および描画法やコーラージュ法を用いた心理査定や心理面接技法の習得に関連した研究を継続して実施した。

(2) 2012年8月に開催された第4回日本コーラージュ療法学会ではシンポジウムの指定討論者としてこれまでの研究成果に基づいて発表を行った。また鳴門教育大学研究紀要第28号に単著「セラピスト養成における現代的な問題とその対応—関係性が成立困難な時代に育った世代への指導を通して—」を投稿し、掲載された。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

大学院入試委員会委員として、大学院入試運営に関し誠実に取り組む。

2. 点検・評価

学長の定める重点目標とも重なるが、コース内での大学院入試に係る業務に関してコーディネートを行った。特に大学院説明会、大学院紹介ビデオ、大学院紹介パンフレット、予備校への広報については、大学院入試委員として中心的に業務を遂行した。結果として、本コースへの入学者として47名を確保し、コース定員を充足することが出来た。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- (1) 徳島県精神保健福祉協会教育研修委員会委員として、県民一般を対象とした精神保健に関する啓蒙活動を行う。
- (2) 徳島県立徳島学院の嘱託医として、児童生徒の指導に関して教職員との連携を図る。
- (3) 徳島県学校問題解チーム派遣援事業スクールプロフェッサーの委託を受け、教員・保護者・児童生徒に対し適切な助言・指導を行う。
- (4) 教員免許状更新講習の講師、高知県スクールカウンセラー等研修講座の講師を担当する。
- (5) 8月18-19日、本学において開催される日本コラーゲ療法学会第4回大会の会長として大会を運営する。

2. 点検・評価

- (1) 徳島県精神保健福祉協会教育研修委員会委員として県民一般を対象とした精神保健に関する講演会の企画立案に当たり、2012年11月に早稲田大学教授熊野宏昭氏による講演「うつ病の認知行動療法—マインドフルネスとメタ認知理論への展開—」を、2013年1月に和歌山県立医大講師岡檀氏による講演「死なれん—阿波で自殺を考える—」を実施し、ともに盛況であった。
- (2) 徳島県立徳島学院の嘱託医として、毎月1回児童生徒と面接を行い、指導に関して教職員との連携を行った。
- (3) 徳島県学校問題解チーム派遣援事業スクールプロフェッサーの委託を受け、教員・保護者・児童生徒に対し適切な助言・指導を行った。年度中、のべ5件の派遣に対応した。
- (4) 2012年7月に、本学において開催された教員免許状更新講習の講師を務めた。11月には高知県スクールカウンセラー等研修講座の講師を担当し、精神保健・精神医学に関する講義とケース検討会のコメンテーターを務めた。
- (5) 2012年8月18-19日、本学において開催された日本コラーゲ療法学会第4回大会の会長として大会全般の運営を統括した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

教育に関して、1年次6名、2年次3名の大学院生に対し課題研究を担当したのに加え、本学の心理教育相談室で面接を担当する大学院生を対象とした面接指導基礎実習(1年次)5名、および面接指導実習(2年次)8名に対しても、課題研究に匹敵する綿密な指導を原則として毎週、グループおよび個別に実施し、高度な実践的資質を有する大学院生の養成に貢献した。